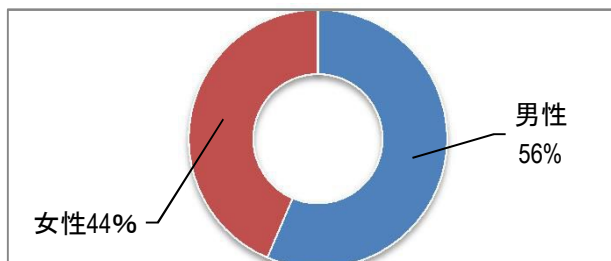


1. あなたご自身についてお尋ねします。

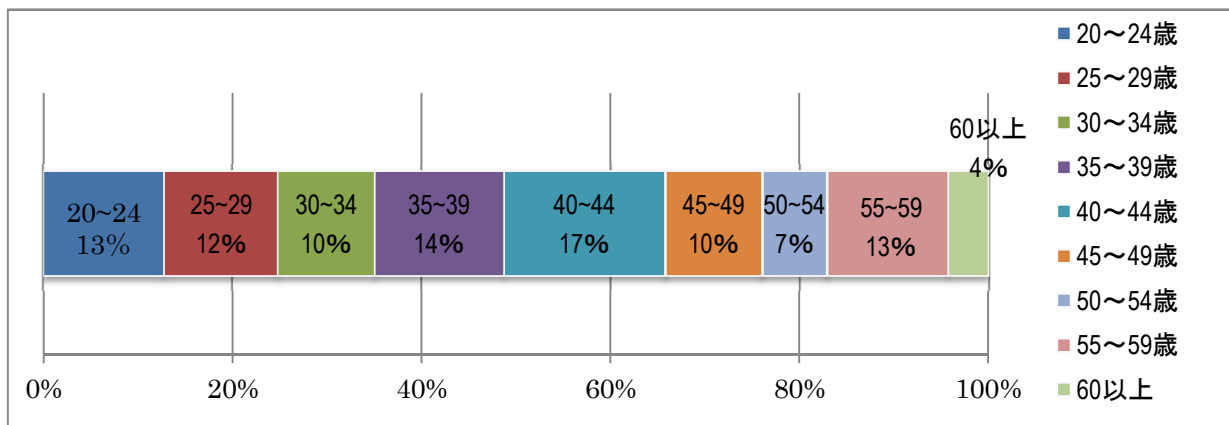
設問1 あなたの性別を教えてください。

男性	66	56%
女性	51	44%
合計	117	100%



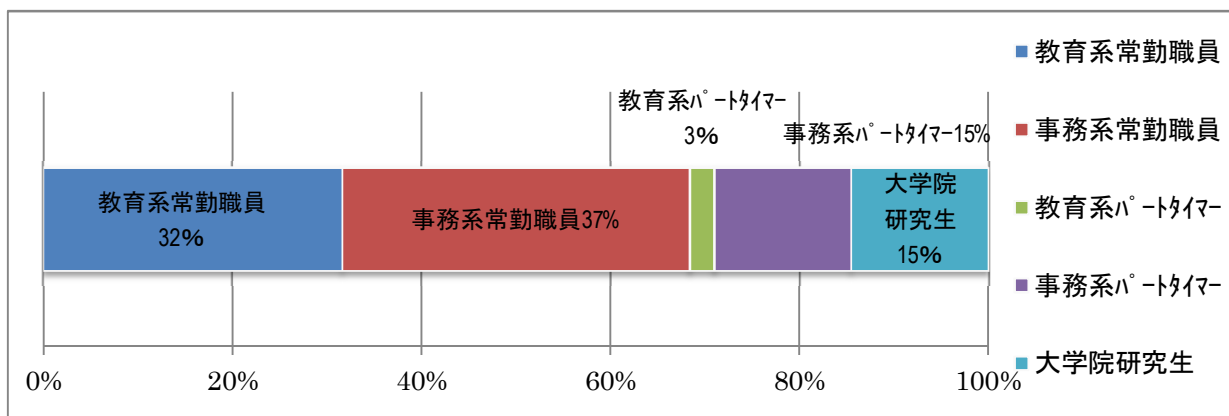
設問2 あなたの年齢を教えてください。（平成28年1月1日現在）

20～24歳	15	13%
25～29歳	14	12%
30～34歳	12	10%
35～39歳	16	14%
40～44歳	20	17%
45～49歳	12	10%
50～54歳	8	7%
55～59歳	15	13%
60以上	5	4%
合計	117	100%



設問3 あなたの職種・属性について教えてください。

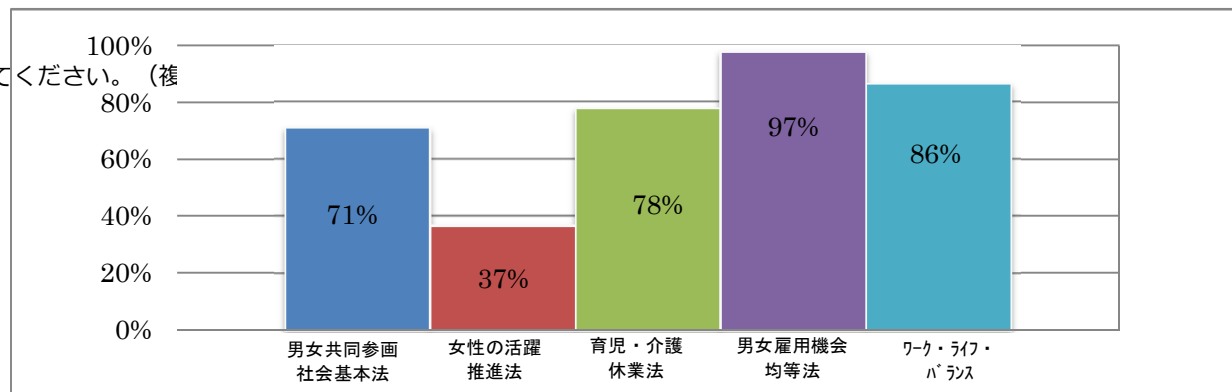
教育系常勤職員	37	32%
事務系常勤職員	43	37%
教育系パートタイマー	3	3%
事務系パートタイマー	17	15%
大学院研究生	17	15%
合計	117	100%



2. 男女共同参画についてお尋ねします。

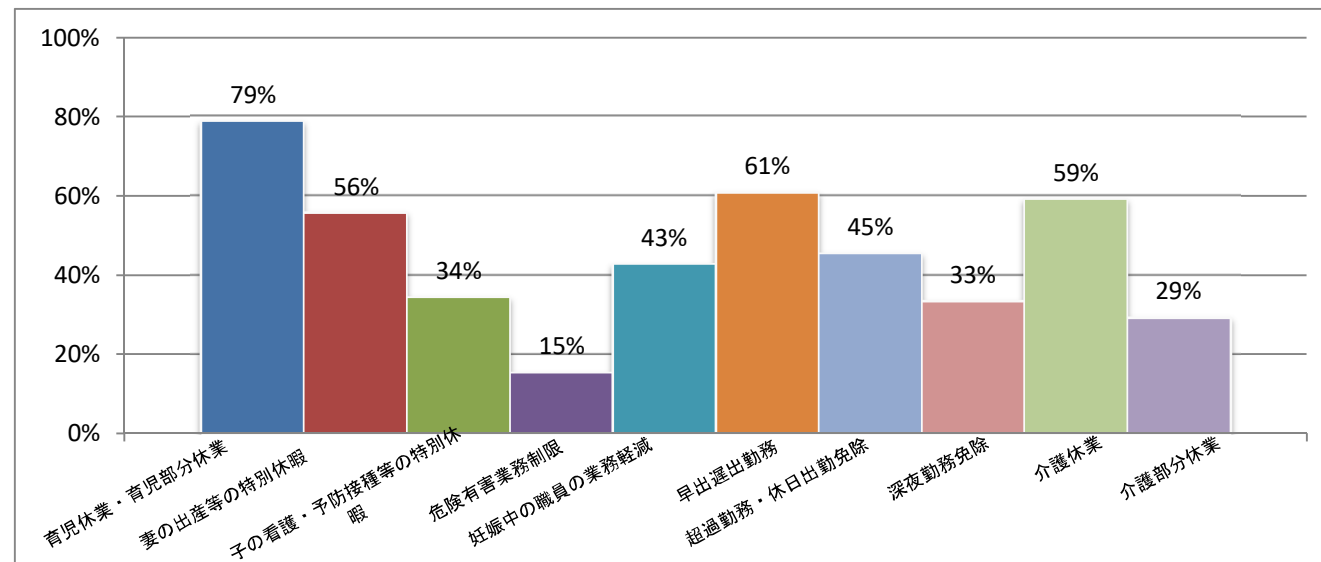
設問1 下記のことがらについて、聞いたことのあるものにチェックしてください。(複数回答可)

男女共同参画社会基本法	83	71%
女性の活躍推進法	43	37%
育児・介護休業法	91	78%
男女雇用機会均等法	114	97%
ワーク・ライフ・バランス	101	86%
合計	-	-



設問2 本学における、下記の勤務時間・休暇等に関する制度について知っているものにチェックしてください。(複数回答可)

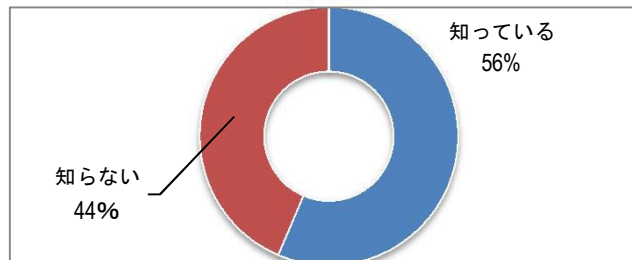
育児休業・育児部分休業	92	79%
妻の出産等の特別休暇	65	56%
子の看護・予防接種等の特別休暇	40	34%
危険有害業務制限	18	15%
妊娠中の職員の業務軽減	50	43%
育児・介護のための早出遅出勤務	71	61%
育児・介護のための超過勤務・休日出勤免除	53	45%
育児・介護のための深夜勤務免除	39	33%
介護休業	69	59%
介護部分休業	34	29%
合計	-	-



3. 本学の男女共同参画についてお尋ねします。

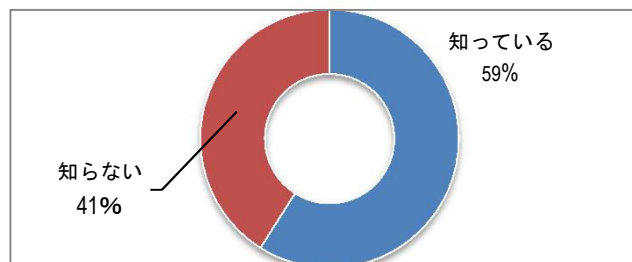
設問1 本学に男女共同参画推進センターが設置されていることを知っていますか。

知っている	66	56%
知らない	51	44%
合計	117	100%



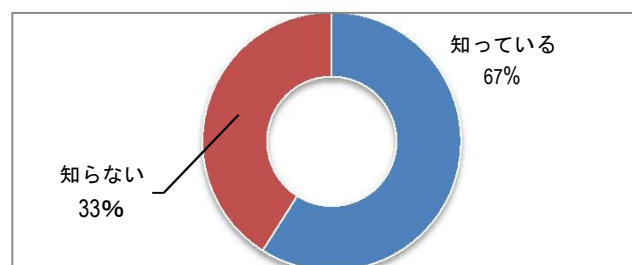
設問2 「名古屋工業大学男女共同参画推進宣言」や「基本方針」を公表していることを知っていますか。

知っている	69	59%
知らない	48	41%
合計	117	100%



設問3 本学が文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般）」平成26年度に採択され、ライフイベント期の女性研究者の支援をしていることを知っていますか。

知っている	78	67%
知らない	39	33%
合計	117	100%

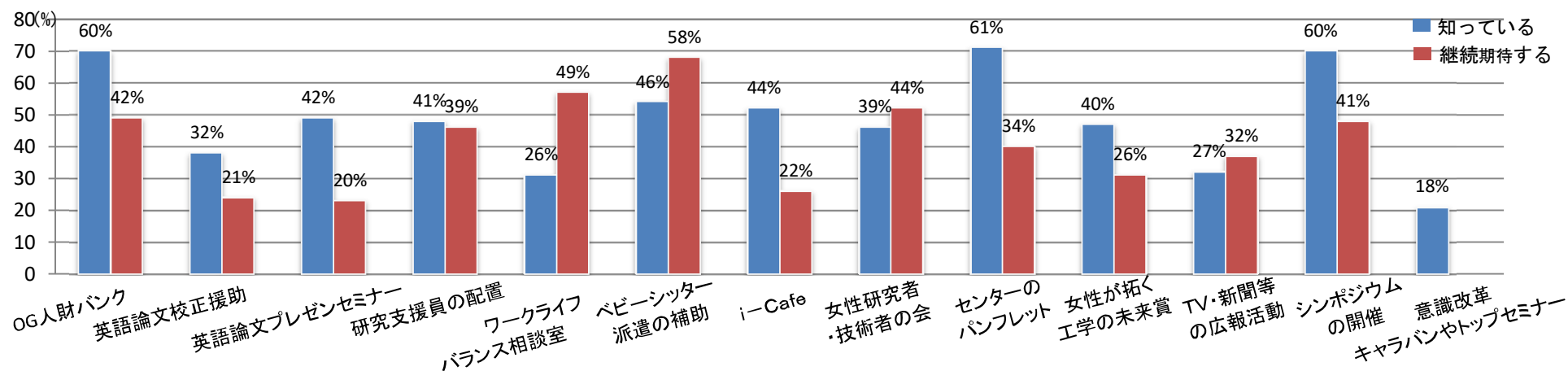


設問4 本学で「女性研究者研究活動支援事業」の一環として行っている取り組みについて知っているものにチェックしてください。(複数回答可)

OG人材バンク開設	70	60%
英語論文校正援助	38	32%
英語論文プレゼンテーションセミナーの開催	49	42%
研究支援員の配置	48	41%
ワークライフバランス相談室の設置	31	26%
ベビーシッター派遣の補助	54	46%
i-Cafe の設置	52	44%
女性研究者・技術者の会	46	39%
男女共同参画推進センターのパンフレットやニュースレター	71	61%
女性が拓く工学の未来賞	47	40%
TV・新聞等の広報活動	32	27%
シンポジウムの開催	70	60%
意識改革キャラバンやトップセミナーの開催	21	18%

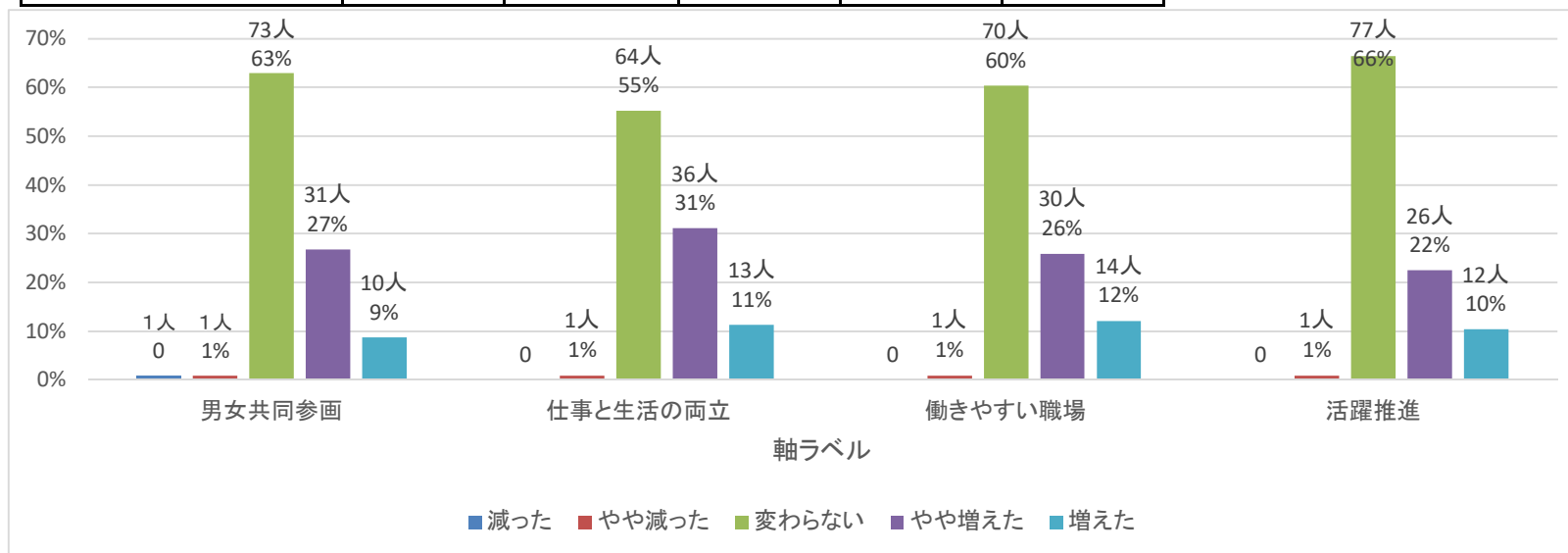
設問5 これからも女性研究者を増やすため、継続を期待するものにチェックしてください。(複数回答可)

OG人材バンク開設	49	42%
英語論文校正援助	24	21%
英語論文プレゼンテーションセミナーの開催	23	20%
研究支援員の配置	46	39%
ワークライフバランス相談室の設置	57	49%
ベビーシッター派遣の補助	68	58%
i-Cafe の設置	26	22%
女性研究者・技術者の会	52	44%
男女共同参画推進センターのパンフレットやニュースレター	40	34%
女性が拓く工学の未来賞	31	26%
TV・新聞等の広報活動	37	32%
他大学の事例などのシンポジウムの開催	48	41%



設問6 男女共同参画推進センターが設置されてから現在まで（平成26年12月1日から平成28年1月現在）のご自身の考えの変化についてお答えください。

考える機会	減った	やや減った	変わらない	やや増えた	増えた	
男女共同参画	1	1	73	31	10	116
仕事と生活の両立	0	1	64	36	13	114
働きやすい職場	0	1	70	30	14	115
活躍推進	0	1	77	26	12	116



4. 男女共同参画について今後取り組んでほしいことがあればご記入ください。

NO.	記載事項
1	なし
2	応援しています
3	女性が活躍できるようにいろいろなことに取り組むとともに、男性の意識改革につながるような取り組みもあるとうれしいです。育休から復職する女性が夫ともに今後の勤務体制について上司と話しあう場がある企業もあるようですので、参考にさせていただけると幸いです
4	学内に保育施設があれば育児をしている方は助かると思う。
5	保育所の設置
6	女性労働者の増加を促すため、女学生を増やす取り組みと、女学生の質向上を図る取り組みを行うべき。
7	今後、多くの教職員の課題となる介護について
8	古いトイレをきれいにするなど、男女を問わず、各々に必要なスペースを確保してほしい。
9	国家の基本方針として大学に求めるものは研究者確保であることは理解していますが、研究者を支える職員に対する経済的支援、時間の支援を検討いただきたい。
10	職員の場合、男女ともに育児・介護休暇等を取得しやすい環境を整備する必要があると思います。休暇取得期間の業務をだれが負担するのか、短時間の中で実施できるのかなどが、気にかかることです。そのため、育児休暇等取得者の所属部署の業務がメンバーに過重な負担とならないように、休暇取得者一人に対し一人のサポートではなく、大括りで良いので人的サポートを受けることができる仕組みがあれば良いと考えます。
11	育児だけでなく介護についての取り組みがあることを、大きく取り上げてほしい。
12	問題自体があまり理解されていないかも知れません。効果的な広報活動が重要だと思います。今後とも工夫して皆様の意識に残る情報提供をお願いします。
13	若手職員向けに将来設計の参考となるような、男女共同参画センターや雇用面においてどのような支援が可能なのかをまとめたパンフレット・冊子等の作成をお願いしたいです。
14	男女関係なく、しっかり個人が評価され、尊重されるシステムを望みます。
15	もう少し広報が必要だと思います。
16	研究者について言えば、ワークライフバランスが全ての問題だと考えます。「研究者は好きなことを夜中までやっているのが普通」「先生は聖職者、自らを犠牲にして科学や社会に奉仕するのが当たり前」「土日や夜中まで学生の指導を面倒を見るのがよい先生」という大学教員自身と、職場、社会の価値観が現状の「異常な量の時間外労働を前提とした勤務の常態化」に繋がっています。女性の参画が難しいのはもちろん、男性も家庭にコミットできません。子供を持つ親として、特に年寄りの、大学教員の意識改革も必要だと強く感じます。

17	昨年8/28に女性の経営者向けに下記のシンポジウムがありました。いい内容だったので同様の企画をお願いしたいです。シンポジウム「ビジネスの今を知り、未来をつくる大学」日時：8月28日（金）14:00-16:45会場：名古屋工業大学4号館1階ホール参加費：無料（定員170名）
18	女性限定の取り組みではなく、女性優遇の取り組みを実施して欲しいです。そのためにも、過度の女性優遇に繋がらない、あるいは繋がっていると思